

各関係機関 御中



農研第10003号
令和6年3月7日

石川県農林総合研究センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

令和5年度病害虫発生予報第8号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部 病害虫防除室
電話 076-257-6903 (直通)
FAX 076-257-9140
E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病害虫発生予報第8号

(予報期間：3月上旬～4月中旬)

予報内容

水 稲

- ・ **ばか苗病、もみ枯細菌病(苗腐敗症)、褐条病、苗立枯細菌病**の発生は、**やや多**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。
なお、育苗にため池や河川水を利用する場合は、苗立枯細菌病の発生に留意する。

麦 類

- ・ **オオムギうどんこ病**の発生は、**やや多**と予想される。発生が認められたほ場では、随時防除を実施する。

果 樹

- ・ **ナシ黒星病**の発生は、**多**と予想される。一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。
- ・ **カキ炭疽病**の発生は、**多**と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

野菜・花き

- ・ **タマネギべと病**の発生は、**やや多**と予想される。早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。
- ・ **ハダニ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ・ **アブラムシ類**の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

---気象予報---

1か月予報（令和6年2月29日付け 新潟地方気象台）

予報期間：3月2日～4月1日

[確率予報]

気温	低い	20%	、	平年並	40%	、	高い	40%
降水量	少ない	30%	、	平年並	30%	、	多い	40%
日照時間	少ない	40%	、	平年並	30%	、	多い	30%

[概要]

冬型の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくいため、向こう1か月の気温は平年並か高く、降雪量は平年並か少ないでしょう。

・3月2日（土）～3月8日（金）

天気は数日の周期で変わりますが、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

・3月9日（土）～3月15日（金）

天気は数日の周期で変わるでしょう。

・3月16日（土）～3月29日（金）

天気は数日の周期で変わるでしょう。

3か月予報（令和6年2月20日付け 新潟地方気象台）

3月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

4月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

5月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 水稻の病害虫

苗立枯病（ピシウム菌）

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | やや少 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は並（±）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（－） |
| 注意事項 | (1) 育苗資材や施設の洗浄・消毒を励行する。
(2) 育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。 |

苗いもち

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | 少 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の穂いもちの発生は少（－）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（－） |
| 注意事項 | (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
(2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。 |

ばか苗病

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は並（±）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（＋） |
| 注意事項 | (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
(2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。 |

もみ枯細菌病(苗腐敗症)

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は並（±）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（＋） |
| 注意事項 | (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
(2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。 |

褐条病

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は並（±）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（＋） |
| 注意事項 | (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
(2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。 |

苗立枯細菌病

- | | |
|-------|--|
| 発生時期 | 育苗期 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は並（±）
(2) 育苗期の気温は平年並か高い（＋） |
| 注意事項 | (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
(2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。
(3) ため池や河川水を利用する場合は、発生に留意する。 |

2 麦類の病害虫

オオムギうどんこ病

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は平年並か高い (+) |
| 注意事項 | (1) 発生を認めたほ場では、随時防除を実施する。 |

オオムギ雲形病

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | 並 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生は少 (-)
(2) 気温は平年並か高い (+) |
| 注意事項 | (1) 発生を認めたほ場では、茎立期の防除を徹底する。 |

オオムギ赤かび病

- | | |
|-------|---|
| 発生時期 | 出穂後 |
| 発生量 | 並 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は少 (-)
(2) 気温は平年並か高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 注意事項 | (1) 出穂前後の降雨は発生を助長する。
(2) 出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を徹底する。 |

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

- | | |
|-------|---|
| 発生時期 | 感染期は発芽から |
| 発生量 | 多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は多 (+)
(2) 気温は平年並か高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 注意事項 | (1) 一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。 |

カキ炭疽病

- | | |
|-------|---|
| 発生時期 | 感染期は4月以降 |
| 発生量 | 多 |
| 予報の根拠 | (1) 前年の発生は多 (+)
(2) 気温は平年並か高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 注意事項 | (1) 罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。
(2) 休眠期の防除を徹底する。 |

4 野菜・花きの病害虫

タマネギべと病

- 発生時期 感染期は4月上旬
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 気温は平年並か高い (+)
(2) 降水量はほぼ平年並み (±)
注意事項 (1) 早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。

灰色かび病

- 発生時期 連続発生
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は平年並か高い (-)
(3) 降水量はほぼ平年並み (±)
注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) ハウス内の換気に努める。

ハダニ類

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は平年並か高い (+)
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類

- 発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや多 (+)
(2) 気温は平年並か高い (+)
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。